

令和6年度栄養教諭5年経験者研修 実施計画

1 目的

栄養教諭としての経験を基に専門的・実践的な研修を行い、食に関する指導のリーダーとしての役割を果たすために必要な指導力と実践力の向上を図る。

2 主催

宮城県教育委員会

3 対象

小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校に在籍し、教職経験5年経過6年目の栄養教諭（以下「研修教員」という）とする。 ※過年度未研修教員を含む。

ただし、下記に留意のこと。

- (1) 県外及び私立の学校の栄養教諭経験年数は当該在職期間に通算する。ただし、学校栄養職員及び学校以外の公的機関（自然の家は除く）での在職期間は除算する。
- (2) 臨時的に任用された期間は、当該在職期間に通算しない。
- (3) 在職期間のうち、次に掲げる期間が引き続き1年以上ある場合は、その期間の年数（1年未満の端数があるときは、これを切り捨てた年数）を当該在職期間から除算する。
 - ① 休職又は停職により現実に職務を執ることを要しない期間
 - ② 育児休業をした期間
 - ③ 配偶者同行休業等をした期間
 - ④ 職員団体の役員として専ら従事した期間
- (4) 次の者は対象者から除く。
 - ① 臨時的に任用された者
 - ② 他の任命権者が実施する当該研修に相当する研修を受けた者

4 内容

- (1) 校外研修（3日）
 - ① 研修日程と内容・会場について

6月18日（火） 会場： 総合教育センター	専門研修1	【栄教新採研・5年研・中堅研合同】 栄養教諭の資質と食に関する指導の推進 食に関する指導の実際 食に関する現状と課題
	講義 実践発表 講義・演習	
9月5日（木） 会場： 光明支援学校	専門研修2	【栄教新採研・5年研・中堅研合同】 特別支援学校における給食指導 学校給食におけるICT活用の実際 地域連携の取組について
	講義 授業参観 協議	
11月27日（水） 会場： 総合教育センター	専門研修3	【栄教新採研・5年研・中堅研合同】 これからの栄養教諭の役割 食育推進における取組
	講義 実践発表	

② 受講に係る留意事項

- ア 校外研修の受講に関する申込手続は、Mナビオンライン「受講管理システム」から、指定された期日までに、研修教員が確実に行うこと。
- イ 校外研修については、研修教員がMナビオンライン「受講管理システム」の「研修会情報」を確認し、研修に向けた準備を行うこと。

ウ 欠席について

- ・市町村立学校

所管の教育委員会に相談の上、やむを得ない理由で欠席する場合は、教頭等が研修担当に電話連絡を行う。その後、速やかに（所定のルートで）「欠席届」（センター様式第1号）を提出する。

- ・県立学校

教頭等が研修担当へ電話連絡を行い、やむを得ない理由で欠席する場合は、速やかに「欠席届」（センター様式第1号）を提出する。

エ 欠席した研修の補充等については、欠席事由や研修内容など一つ一つ異なることから、研修担当から直接指示を受ける。

オ 「延期願」（センター様式第2号）は、年度単位での扱いとなり原則として年度始め4月の早い段階に提出する。前年度に引き続き延期する場合も、毎年4月に提出する。

(2) 校内研修（学校ごとの計画による）

学校の実情に応じて工夫し、校長、副校長、教頭、主幹教諭及び教諭（教務主任、給食主任、保健主事）等の指導・助言の下、年度当初に研修計画を作成する。その際、あらかじめ各学校の年間計画等に組み入れ、確実に実施できる措置を講ずる。

研修内容は、食に関する授業実践を通じた研修及び食に関する指導のリーダーとしての課題解決を図る研究を行う。

なお、校外研修（専門研修3）で実施する実践発表は、「食育の推進における取り組み」とし、校内において実践したものとする。

ア 実施上の留意点

1日3時間を目安とし、関係学校及び関係調理場の実情に応じて計画的・弾力的に実施すること。ただし、研修日は2日以上、かつ研修時間は合計6時間以上となるようにすること※1。

※1

例1 1日3時間×2日

計 2日（6時間）

回	時間	内容	
1	1時間	研究	「食育推進」の課題に向けて －食に関する学校課題と地域の特色を生かした献立－
	2時間	実践	「食育推進」を教材とした学習指導案の作成
2	1時間	実践	校内公開授業
	1時間	実践	事後検討会
	1時間	研究	研修のまとめ 実践発表会に向けて

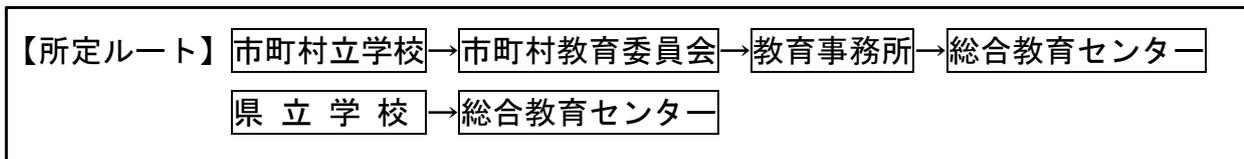
例2 1日1時間×6日

計 6日（6時間）

回	時間	内容	
1	1時間	研究	「食育推進」の課題に向けて ・地域の特色を生かした食に関する指導と教科の連携について検討
2	1時間	実践	「食育推進」の課題に向けて ・具体的な指導場面を想定した指導方法
3	1時間	実践	「食育推進」の課題に向けて ・教材教具の工夫等
4	1時間	実践	校内公開授業
5	1時間	実践	事後検討会
6	1時間	研究	研修のまとめ 実践発表会に向けて

5 関係様式

校長は、校内研修報告書等を作成し、所定ルートで提出する。なお、下に示した提出期限は総合教育センターの期限であり、市町村立学校は市町村教育委員会が定める提出期限日を確認の上、提出する。



■栄養教諭5年経験者研修に係る作成文書一覧

様式	文書名	原本保管先		提出期限
		市町村立学校	県立学校	
様式1	校内研修報告書	総合教育センター	総合教育センター	令和7年2月28日（金）

■その他様式

文書名		提出期限
センター様式第1号	欠席届	電話連絡後速やかに提出。
センター様式第2号	期日変更・延期願 ※延期者がいる場合のみ	年度始め4月の早い段階で提出。

※上記様式は、総合教育センターホームページからダウンロードし、活用すること。

※総合教育センターへの提出は「総合教育センター所長（教職研修班扱い）」宛てとする。



【様式ダウンロード】

※經由欄は県立学校の場合不要

教育事務所經由印欄

教育委員会經由印欄

栄養教諭 5年経験者研修
校内研修報告書

学校名	〇〇〇市立〇〇〇学校	職氏名	栄養教諭	〇〇 〇〇
研修内容の概要				
<p>「学校名」「氏名」を入力すると表下の学校名・氏名は自動入力されます。</p> <p>校内研修の研究内容を分かりやすくまとめて記入してください。</p>				
研修成果と今後の課題				
<p>栄養教諭としての自分自身のこれからの展望を含めて、校内研修について、どのような学びがあったのかを具体的に記入してください。</p>				

令和 7 年 月 日

学校名 〇〇〇市立〇〇〇学校 研修教員 職・氏名 栄養教諭 〇〇 〇〇 の

養護教諭 5年経験者研修 校内研修報告書を、上記のとおり報告します。

令和 7 年 〇 月 〇 日

〇〇〇市立〇〇〇学校

校長 〇〇 〇〇〇 (公印省略)

(別紙様式)

栄養教諭5年経験者研修 実践発表資料

「 テーマ 」

～ サブテーマ ～

(1行空ける)

(例) 食育推進の課題に基づいて、テーマを設定する。
栄養教諭の職務(特に栄養管理、衛生管理、学校と地域連携、食に関する指導、学校給食運営等)の観点からその解決に取り組む。

学校名 ○○市立○○○学校

栄養教諭 ○○ ○○

(1行空ける)

1 はじめに

食育推進の課題を挙げ、課題解決に向けた手立ての概要及び目標を示す。

※数値データで変容を見取れるようにするため、現状と実践後イメージして取りかかるとする。

左右の余白は20mm程度とること。

2 実践研究発表の内容

目標を達成するために実践した具体的手立てについて示す。その際、ねらい及び評価についても明示すること。

※ 実践に当たっては、教職員に周知を図り、年間を通じた計画的・組織的な取組となるように留意すること。

※ 評価は、その観点(計画どおりに実行できたか、ねらいの達成度等)、方法・時期等をあらかじめ定めて実施すること。また、自己評価と合わせて、教職員、児童生徒、保護者等による他者評価の視点も取り入れること。

3 成果と課題

実践から得られた結果及び評価を基に考察し、目標に対する達成の状況を明らかにした上で、成果と今後取り組むべき課題をまとめる。その際、個々の手立てについて、ねらいに対して有効であったか、課題がどの程度解決したかを示すこと。また、実践全体を通じた目標の達成度を示すこと。

考察や分析の根拠を示す際は、数値で表す等の方法で明示するように留意すること。

【資料の取扱等について】

(1) 発表資料の作成に当たっては、校長等の指導を受けること。

(2) 著作権や個人情報等の保護に留意すること。

(実践発表資料の提出について)

宛て先 : 宮城県総合教育センター教職研修班

(栄養教諭研修担当者扱い) 宛て

E-mail : teaching-p@edu-c.pref.miyagi.jp

提出期限 : 令和6年11月13日(水)